

国会、国民を無視

—特集—

「委員長——」の叫び声が聞えた瞬間、与野党の全委員が立ちあがり「ワァー」というかけ声を残して委員長席につめよった。

(衆院速記録から)

青木委員、本件に対する質疑を……(発言するもの多く聴取不能)……だ……(発言するもの多く聴取不能)
桜内委員長、青木君の……(発言するもの多く、聴取不能)

ふだんは淡々と予算審議が行なわれる衆院第一委員室。11月17日(水)、沖縄返還協定を審議中の衆院沖縄返還協定特別委員会で、多数をたのむ自民党はかねての打合せ通り、混乱のうちに採決を強行した。住民生活に関係深い請求権、裁判の効力などまだ審議されておらず、野党側が最低条件としていた現地公聴会も実現しなかった。更に質疑に立つ予定だった沖縄出身の委員である安里積千代、瀬長亀次郎両氏の質問も封ぜられてしまった。折から琉球政府の屋良主席は「復帰措置に関する建議書」を携えて上京した。しかし午後3時18分、羽田空港に降りた直前に「採決」は行なわれていた。

「強行採決の報を聞いてあまりのことに、私はあ然として、言葉が出ませんでした。沖縄県民の命運を決定する重要な返還協定が、このような形で採決されるとは……」きびしい表情で語る屋良主席の目が涙でぬれた。全国民が見守る返還協定は又しても党利党略、国会的手法で処理されてしまった。協定は可決されたとする自民党に対し、野党は「無効」を主張し、一切の審議を拒否した。

空転を続ける国会、收拾に乗り出す船田衆院議長。各党は夷りなき抵抗の中で「政党エゴ、まる出しの駆け引き」を続けた。

一方、院外では強行採決無効を叫ぶ人々が連日連夜の抗議デモ。

「佐藤内閣打倒・批准阻止」のシュプレヒコールを繰り返し、衆院面会所前の請願デモは絶えることなく続いた。

強行採決で生じた審議ストップの事態が続いていた国会は20日夜、船田議長のあにせんで自民・社会・公明・民社の四党幹事長・書記長会談が開かれ、收拾案がまとめられた。

自民・公明・民社が出席して委員会で補足質問、24日に衆院本会議を開き、沖縄返還協定承認案件の審議、採決を決めた。

24日、午後2時、社会・共産が欠席したまま開かれた衆院本会議。先の委員会で「採決」された協定は多数をもって可決した。

しかし300議席におごる佐藤政府は国民を無視した力の政治をいつまで続けていくのだろうか。